

番号	議題	質問・意見	当日の回答・対応等
1	議題2	まだ検討段階のものもあるが、病床縮小を考えており、現在は病棟が2つあるが1病棟化に向けて調整を開始している。（飛騨市民病院）	
2		地域医療構想の本質は単に病床数の調整ではなく、役割分担が最も大切である。医療の役割分担や集約化は地域医療構想を進めていく本質であるため、心から支持する。	
3	議題4	高山赤十字病院と久美愛厚生病院がうまく連携するにあたり、派遣元の大学や経営基盤が異なることが難しい要因である。今後も組織への働きかけが必要である。	
4		高山赤十字病院と久美愛厚生病院と高山市で連携協定を結び、2つの中核病院と行政で話し合いの場をもち、議論を始めている。 飛騨圏域の首長、病院長との懇談会を開き、危機感や課題を共有し方向性を確認したところであるため、今後打開策を見つけ、推進していきたい。	
5		労働人口減少の観点から、2病院を両立させることは非常に難しいため、今後も連携を進めてほしい。	
6		日赤と厚生連という経営母体が違う2病院が統合するとなると、資金源の確保等が難しく、国や行政の力添えが必要になるのではないかと。	
7		下呂温泉病院と金山病院において、画像診断等デジタル技術を応用して連携していくことを前向きに進めていきたい。また、地域の開業医も高齢化が進んでいるため、役割分担をしていく必要がある。	
8		下呂市と県という経営母体が違う病院を統合することは難しいが、今後も連携強化を進め、市民が困らない医療体制を推進していきたい。	
9		県立病院として、県総合医療センターと県立多治見病院と県立下呂温泉病院の中で、人的経営や経営としての統合はどのように考えているのか。	3病院間の人的交流も積極的に進めてもらうよう検討していただいているところである。地域の基幹病院として、他の医療機関との連携も積極的に実行してもらいたいと考えている。
10	その他	地域連携法人ができると、人の派遣や病床の貸し借りが可能になり、診察や紹介状のやりとりが効率良くできるようになるという点で非常に良いものである。電子カルテや機種種の統一を進めていくことが大事である。	
11		人材確保について、大学や行政と協力し努めているところだが、専門医以上、中堅の医師が不足しており医療を担っていくことが厳しい状況である。医師の数だけでなく、中堅以上の医師確保という視点でもサポートをお願いしたい。	
12		新たな地域医療構想に関する取組みの中で、在宅医療や介護連携等の話があるため、今後の調整会議では病床数以外にそのような資料を提供してほしい。	
13		地域住民のためにいかに最小のコストでしっかりと結果を出すかという観点で、地元で議論を進めてもらいたい。	

番号	議題	質問・意見	当日の回答・対応等
14		看護職の地域偏在はとて大きな問題である。看護職を目指す人を増やし、県内で看護職を辞めないような対策が必要である。医師偏在対策と同じように、看護職の偏在や看護補助者の確保対策も強化して取り組んでほしい。	
15		飛騨圏域は他地域と比べて高齢化が進んでおり、広大な地域に人口が点在しているため、限られた人材を効率よく、医療や介護のサービスに繋げていく必要がある。	
16		飛騨圏域は想像以上に少子高齢化が進んでいるため、それぞれの病院が強みを活かしながら特化と役割分担していく必要がある。	
17		病院薬剤師の確保が喫緊の課題である。今後も県の医療人材確保のための事業を活用し、取り組んでいきたい。	
18	アドバイザー	地域枠の制度について、開始10年の段階で制度を見直し、岐阜圏域以外の医師不足地域で勤務するという規定を追加した。地域枠制度が始まって17年が経ち、現在26名が飛騨圏域で勤務している状況である。引き続き、学生の育成を進めていく。 医師を育てるには学生が6年間、初期研修2年間、それから専門医取るのにさらに3年か5年というかなり長い時間かかるため、引き続きご支援、ご指導をお願いしたい。	
19	アドバイザー	医療に関わるさまざまな職種の人材不足が全国的に問題となっているため、病床数の議論の他に、人材不足に対する協力や連携が必要になると考える。人口減少が著しい地域ではスピード感が大事であり、難しい問題ではあるが、地域住民のため、地域医療を良くしていくために先生方のお力をお借りしたい。	